



懐かしい和歌山

内蒙古体育職業学院 副教授 オルンゴワ

私の日本留学時代の思い出は大阪と和歌山にいたときのことです。日本から中国に帰国してもう20年になりましたが、留学当時にお世話になった日本の方々と未だに連絡が取れて、お付き合いができていることは非常に嬉しく思います。和歌山市はまるで私の第二故郷のようにになりました。

先ず、初めにお礼を申し上げたいのは、私の指導教官である和歌山大学の教授松浦善満先生です。松浦恩師のお蔭で和歌山大学大学院教育学研究科の大学院生になり、そして、和歌山大学とWINコンコードの皆様に出会えました。

初めてWINコンコードの方との出会いは、2000年4月でした。その頃は、私は大阪から和歌山留学生会館へ引越したばかりで、和歌山には友人や知り合いは一人もいませんでした。私は和歌山大学の初の内蒙古自治区からの蒙古族留学生だったのです。その時、私は日本語で話すのはまだあまり上手にできなくて、母語で話をする人もいなかったため、寂しい日々ばかりでした。ある日の午後、WINのメンバーの方の会社に行き、晩ご飯をいただき、ご馳走になりました。その時の出会いから現在までWINコンコードの方との連絡は絶えず、20年間のお付き合いが続いています。

私は留学時代に和歌山市に滞在した3年間はたくさんの楽しい思い出がありました。いつも頭の中に浮かび上がり思い出します。私達留学生20人以上もWINコンコードのメンバーのお家に招かれ、大勢の人と食事をしたり、おしゃべりしたりしてとても楽しい一時を過ごしていました。その方の家には高齢のご両親が同居されていました。



ご両親の面倒をみながらも、たくさんの留学生を家族のように暖かく応援してくださったことを今思い出しても胸が熱くなり、心が温まります。

2001年4月新入生の歓迎会を兼ねた和歌山城の花見(写真1)に、5月WINコンコードの総会と交流パーティーに参加しました(写真2)。2001年12月クリスマスパーティー(写真3)留学生会館に住んでいた留学生たちやメンバーの方の家でお鍋パーティーをしました。2002年WINコンコード主催のスキー(写真4)等、様々なイベントに参加し、楽しい思い出がたくさんできたことは嬉しく思います。ときには中谷さんと韓国人の留学生権さんと三人で一緒に集まり、朝の4時ごろまで、徹夜しておしゃべりしたりしたことは今でもよく覚えています。

また、WINコンコードの皆様に私の故郷の母校に新しい学習用の机と椅子をご支援いただきました。学校の先生及び生徒たちのお喜びの様子をご覧ください。茲に私は故郷の皆様を代表し、WINコンコードの皆様の暖かいご支援にあらためて感謝を申し上げます。(写真5)。本当にありがとうございました。

私は留学期間中にロータリークラブの奨学金のご支援を頂き、そのお蔭で和歌山大学の修士課程を修了でき、2003年に帰国しました。帰国後は中国内蒙古自治区の首都の呼和浩特市にある専門学校の教師になり、日本で身に付けた知識を内蒙古の子達に教えております。(写真6)。

最後に、日本でお世話になった和歌山大学及び国際ロータリー2640地区の皆様とWINコンコードの皆様に心から感謝を申し上げます。日本で出来た楽しい思い出は私の宝物です。今後も宝物を大事にし、いつかまた皆様との再会のときを楽しみにしております。

皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします





(3)



(4)



(5)



(6)

2021 年度 活動経過

- 5 月 29 日 WIN コンコードニュースレター第 31 号発行
 5 月 30 日 第 13 回 WIN コンコード総会 WIN 事務所
 留学生によるスピーチ WIN 事務所
 6 月 8 日 読売日本交響楽団コンサート
 和歌山県民文化会館
 6 月 13 日 料理教室 WIN 事務所
 6 月 20 日 就職活動勉強会 WIN 事務所
 6 月 23 日 卒業生 来訪 WIN 事務所
 6 月 27 日 ホームビジット 会員宅
 6 月 27 日 モンゴル留学生歓迎 マリーナシティ
 7 月 4 日 料理教室 WIN 事務所
 8 月 9 日 卒業生 来訪 WIN 事務所
 8 月 19 日 新型コロナウイルス感染者
 病院と保健所への対応
 8 月 28 日 世界遺産研修 高野山 金剛峯寺
 9 月 12 日 世界遺産研修 熊野地域
 那智の滝 那智大社 本宮大社
 9 月 22 日 ツイニングプログラム留学生交流会
 WIN 事務所
 9 月 26 日 情報交換と交流会 WIN 事務所
 10 月 4 日 紀の川北部断水 給水とシャワー提供
 10 月 24 日 マレーシア留学生歓迎会 WIN 事務所
 11 月 6 日 世界遺産研修 高野山 金剛峯寺
 12 月 18 日 八朔祭り 紀の川市
 忘年会 WIN 事務所
 12 月 22 日 会社見学 早和果樹園 有田市
 12 月 26 日 卒業生来訪 歓迎会 WIN 事務所
 12 月 28 日 白浜観光 千畳敷 三段壁 円月島
 1 月 2 日 お正月初詣 紀州東照宮 玉津島神社
 百人一首 WIN 事務所
 1 月 3 日 お正月初詣 紀三井寺
 3 月 16 日～ 日研生受け入れ支援
 3 月 21 日 ホームビジット 会員宅
 3 月 27 日 和歌山市文化遺産研修
 紀州東照宮 玉津島神社 天満宮
 3 月 31 日 お花見 運動広場 (加太)

年間

- ・就職活動支援
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与
- ・日本社会や文化等の学びを支援
- ・ホストファミリーとして支援
- ・卒業生との交流

ミャンマーの古都 マンダレー

メイテュ（ミャンマー）

初めまして。私はミャンマー出身のメイテュ（メイテュ ミョー アウン）と申します。現在、和歌山大学で日本語・日本文化研修留学生として勉強しています。「メイテュさんは、和歌山大学では初めてのミャンマー人の日本語・日本文化研修留学生です」と言われましたが、皆さんはミャンマーをご存じでしょうか。

母国のミャンマーも日本と同じアジアの国です。東南アジアに位置しており、インド、中国、タイ、バングラデシュ、ラオスの5カ国と接しています。日本から見るとミャンマーは西南側にあります。地理的には、日本から4366 km離れていて、ミャンマーから日本まで直行便で約8時間かかります。ミャンマーの面積は68万平方キロメートルで日本の1.8倍ですが、人口は約5400万人で、日本の人口の半分以下です。

ミャンマーは人口の約70%をビルマ族が占めており、主に8つの民族と130以上の小民族で構成されている多民族の国です。ミャンマー人の約90%は仏教を信仰しており、全国的にパゴダやお寺などの宗教的な設備が多く見られます。国中の多くのパゴダやお寺は金色で豪華に建てられているため、ミャンマーはゴールデンランドとも言われています。

私の地元はミャンマーの西北部、インドの近くにある小さい町です。でも、大学はマンダレーというミャンマーの第二の都市に位置しています。私は、今、三年生ですので、大学生生活をマンダレーで過ごすことになります。本文章では歴史的に文化が豊富で、とても魅力的なマンダレーのことについて紹介したいと思います。

マンダレーは国土のちょうど中央に位置しており、国内貿易の中心となっていてミャンマーの多民族が交流している場所とも言えます。貿易だけでなく大学や教育機関も多く設置されている都市ですから、夢を抱いて前向きに頑張っている若者たちで賑わっています。都市の交通機関といえばバスや電車などをイメージするのが多いと思いますが、マンダレーは「バイクの都市」と言われるほど、主な交通機関はバイクです。大都市ですが、バイクでどこでも簡単に移動できるのでとても便利です。

交通機関が便利だということだけがマンダレー



の魅力ではありません。マンダレーには、伝統的な文化遺産や歴史的な設備が多く残っていて、古代の雰囲気や文化が感じられることも魅力の一つです。

1858年から1885年の間、マンダレーはミャンマーの首都でした。一辺の長さ3 kmの正方形の領域には高さ8 mの城壁に囲まれた王宮が建てられており、周りは濠で囲まれていました。時代を経て、再建された部分もありますが、中を見回してみても、外で濠の周りを歩いて回っても、古代の雰囲気が感じられます。

また、古代の美術的なお寺やパゴダも多く見られます。その中でマハムニパゴダはミャンマーのとても有名なパゴダであり、毎日朝5時ぐらいから全国からの参拝者でとても賑やかです。もうひとつの文化遺産は、マンダレー王宮の近くに位置しているシュエナンドー僧院です。精巧な装飾や彫刻で施されている木造の建築物であり、ミャンマー芸術の至宝ともいえます。あと一つはミンドン王が建造したクドードオパゴダです。普通の金色のパゴダとは異なり、白いパゴダで、700以上の石板があります。各石板に仏典が刻まれており、それは世界最大の本とも言われています。マンダレーにはそれ以外にも多くの歴史的な文化遺産があって、ミャンマーの文化を体験するためには、残していかなければならない場所です。

マンダレーではミャンマーの伝統的な料理やお菓子の店も多く開店されており、美味しいミャンマーの食べ物を味わうことができます。熱帯地域で夏は温度が高くてちょっと大変ですが、冬はとても住みやすいです。皆さんも将来ミャンマーを訪問する機会があったら、ぜひマンダレーにも訪れてください。ミャンマーの伝統的な文化、食べ物、場所など全てにおいて、ミャンマーの雰囲気が十分に感じられると思います。

一口にセイロンティーと言っても

タヌシ（スリランカ）

体が弱っているとき、例えば、夏の暑さに負けそうなときに「元気が出る食べ物は何か」と尋ねたら、日本人なら「うなぎ！」と答える人が多いと言われています。一方、私の国スリランカでは「お茶」を飲むと元気が出ます。

「お茶」はリラックスさせるもの、同時に贅沢なものとしても紹介されます。「お茶」とは次のように簡単に説明することができます。茶はそんなに大きく育たない、緑色の小さい葉っぱがある「木」です。その木の葉芽をよく乾かしてから細かい粉にします。そうしたものを「お茶」と言います。

「お茶」には4つの種類があります。「白茶つまりホワイトティー」、「緑茶つまりグリーンティー」、「紅茶つまりブラックティー」や「青茶つまりウーロンティー」です。それぞれのお茶は、淹れる時間が違います。例えば、「白茶」と「緑茶」の場合は1分か2分で十分です。「紅茶」や「青茶」は2分から3分です。

「ウーロンティー」は、緑茶と青茶の間くらいの黄褐色で、苦みや渋みが消えてまろやかな味わいが特徴です。また、「ホワイトティー」は、春先の短い期間に収穫される新芽のみで作られ、用いることからその名が付いたものです。「グリーンティー」は、収穫直後の生葉をすぐに加熱することでカテキンなどの酸化を防いで作っている茶です。それらの中で、スリランカと言えばやはり「紅茶」つまり、ブラックティーが大人気です。

スリランカでは、紅茶生産はイギリス領セイロンの時に始まって、紅茶王トーマス リプトンがセイロンから紅茶を世界に広め、セイロンは世界第1位の紅茶輸出量となりました。独立してしばらくして国名をスリランカに変更していますが、現在もセイロンティーと呼ばれています。そのセイロンティーは19世紀ごろから世の中で大人気をしました。セイロンティーは抗酸化物質の作用が豊富であるだけでなく、心臓の健康や血糖コントロール機能の改善、減量などの健康効果を持っています。また、紅茶を含めてお茶は体の高血圧を下げる効果もあるとも言われます。

紅茶あるいはセイロンティーは、「ヌワラエリヤ」、「ウダプッセラワ」、「ウバ」、「ディンブラ」、「キャンディ」そして「ダンブラ」で栽培されています。そして、茶の栽培には雨が必要です。



スリランカは、乾燥地帯（Dry Zone）と湿潤地帯（Wet Zone）に分かれますが、茶の栽培に一番適切なのは湿潤地帯です。茶の香りや味は育てる地域の標高で違いがあります。海に近い地域から標高2,000mを超える中央高地にかけて茶が植えられて育つため、茶の栽培地は、標高の低、中、高で大きく3つに分けられています。標高が高くなればなるほど、紅茶を淹れたときの色がライトになり、渋みがあるので、その茶はストレートティーにむいています。標高が低くなればなるほど、渋みが減り、その茶はコクが深まり、ミルクティーに向いています。

また、セイロンティーには様々な種類があり、それぞれの特徴も含んでいる美味しい飲み物です。スリランカのセイロンティーは、一口にセイロンティーと言っても、様々な種類と風味やコク、香りを持っています。ぜひ、日本でも絶大な人気を誇るセイロンティーつまり、様々な紅茶を試してみ、自分の好きな茶葉を見つけてみましょう。



和歌山を初めて知った私

ファティマ（マレーシア）

日本に来る前に、マレーシアのマラヤ大学の日本語理系予備校で2年間勉強しました。というより、日本の大学に進学できるまで日本語や理科知識が詰め込まれていました。その2年間、苦労しました。私の場合は、数学系科目は特に難しかったです。

予備校での修了試験の前に、自分の大学志望書を提出しなければなりませんでしたが、私は迷いました。夜ずっと悩んでいて、不安ばかりの日々でした。突然ある日、校長の水野先生と会話しました。「ファティマさん、関西がいいと思いますよ。そしてなんか動くのが得意みたいので、和歌山大学がオススメです。」その時、私は和歌山のことを初めて聞きました。え、和歌山ってどこだろうと思いました。寮に帰ったあと、グーグルで調べ始めるつもりでしたが、検索する前にホームページにNHKWorldのドキュメンタリーが出てきました。

そのドキュメンタリーは熊野古道と高野山について紹介していました。すごくいい景色だし、なんか落ち着くなと思い、心が引っぱられました。検索したら、「関西空港と近い」「ミカンをはじめ果物が多い」「物価割と安い」「田舎の安心感」などの様々な面白い情報が出ました。家族や先生たちと相談して、よし、和歌山大学を第一志望大学にしました。

しかしやはり、「来る前に」と「来た後」の感覚は違います。実はミカンと熊野古道以外、和歌山には魅力的なものがないとずっと思っていました。これが最悪の勘違いだとわかってきました。あまり世界の人々に知られていないのですが、和歌山は非常に豊かです。歴史、文化、自然など、和歌山は優雅なのに、ゆったり感が溢れている場所だと感じます。

ここに来た後、様々な和歌山の面白い点を発見できました。例えば、加太の歴史、紀伊国についての話、特徴の桃や梅干しのこと、そして和歌山には超派手な電車があること。やはり和歌山を知るために少しずつ冒険しないと駄目です。でもその「冒険」を通して、あらゆる人と出会えることになりました。たくさん勉強と交流をして、自分の世界観、考えを改善していけると思います。そして私も「わかやまのイトコ」を世界中のひとに宣伝したいです。せめてマレーシア人に和歌



山に来てもらえたらいいなとずっと思っていますので、今は頑張ってマレーシアの留学生同士に「わかやまのイトコ」をインスタで紹介しています。また、これから和歌山でもっとムスリムフレンドリーな設備やレストランが増加することを願っています。

それでは、皆さんも一緒にわかやまへあそびにイコラ！

日本留学の感想

劉 楊銘（中国）

私が初めて日本に来たのは、2017年である。この最初の旅行は、日本で勉強したい、生活してみたいという夢を持ち、夢の種を心に埋めました。

私が事前に得た自国の情報では「日本は礼儀正しい、綺麗な国だ」ということでした。

そして、一人で日本へ旅することを決め、実際、日本に来た時に、確かにみんな礼儀正しく、すごく綺麗な国だということを実感しました。

でも、旅行中には、乗る電車や降りる駅がわからなかったこともありました。

又、私の不注意で駅に忘れ物をしましたが、幸いその時は多くの人のおかげで、初めての日本での旅は無事に楽しく過ごすことが出来ました。

特に印象に残ったのは、道に迷った人を駅まで案内する方の行為を見てすごく感動しました。

以上は、日本へ留学を決めたひとつの理由です。

中国に帰ってから、中国国内で専門研究と日本語に関することを精一杯勉強して、遂に2019年10月に、日本留学という夢が叶いました。そして、2019年10月から今日まで、日本で様々なことを経験できました。

春は、WIN コンコードの方々と一緒に加太で桜を鑑賞したことがある。中国で花見は参加したこ

とがあるけど、その時は一人でしたので、心の喜びを友達と共感することが出来ませんでした。

日本に来てから初めて多くの友達と共に花見することができ、また満開の桜の下で、色んな日本の伝統と海外の遊びができて、本当に楽しかったです。

夏には、和歌浦の花火大会に行ったことがある。花火大会は、日本の映画やアニメを通じて、見たことがあるけれど、実際に花火大会に参加することは、日本に来て初めてである。でも、コロナ禍の影響で、花火大会は中止になった時もあります。早く楽しい花火大会が再開される世の中になってほしいです。

秋の季節、和歌山城の西之丸庭園の紅葉を見に行ったことがある。特に、御橋廊下の窓から和歌山城や紅葉の眺めは、人生の一興だと考えている。

冬の時期、観音山フルーツガーデンで友達と共にみかん狩りを体験したことがある。その時に、一番難しいと感じたことは、観音山フルーツガーデンが決めているサイズに合わせて採ることである。作業は非常に大変だったけれど、みかん狩りの体験を通じて、和歌山のみかんの美味しさを知ることができました。

日本に来てから、様々な楽しいことを体験したことがある。その中でも、やはり、和歌山大学の大澤先生と WIN コンコードのお母さんとお父さんたちとの出会いと周りの優しい人達と友達になれることは今までの人生において、一番幸運だったと思っている。

お正月

タオ（ベトナム）

新たに 2022 年を迎えました。時間が経つのが早いですね。今年はまだ和歌山での 2 回目のお正月です。私は今年も WIN コンコードのお正月イベントに参加しました。

お正月の 2 日 10 時に留学生 15 人が集まって初詣に出かけました。皆はマレーシア、ベトナム、中国と台湾から日本に留学しました。誰も楽しく参加しながら、日本のお正月について学びました。

最初に「紀州東照宮」へ初詣をしてきました。紀州東照宮は和歌浦に建立された徳川家康を祀る長い歴史のある神社です。神社に入る前に、参拝作法とマナーを学びました。日本の神社はお寺と違って、神社のお参りは特別の「二礼二拍手一礼」



の拝礼作法です。新型コロナウイルスが早く終息して、皆は新しい年も心身が健康でありますようにお願いしました。祈念してから、皆は神社の社務所前に並んで、おみくじを引きました。私はおみくじで吉を引きました。「今年はどうかな」と思って、とてもドキドキしながらおみくじを引きました。すると、結果は「大吉」でした。すごく嬉しかった。学問には『雑念をすて目標をたてる』と書いてありました。これからはもっと勉強を頑張らないとダメですね。

次に、私たちは紀州東照宮から歩いて「玉津島神社」へ二番詣でをしてきました。皆は歩きながら、日本のお正月の雰囲気を楽しみます。玉津島神社ではたくさんの写真を撮りました。コロナ感染拡大で家からなかなか出られない皆は誰もが笑顔を見せました。

初詣でが終わった後、神社から WIN の事務所に戻って一緒に昼ごはんを食べました。今度のお正月の食べ物は日本の鍋料理です。寒い日は鍋が最高です。野菜と肉が合っていて、とても美味しかったです。私は素材の旨味を感じる白菜が一番好きです。鍋が美味しいだけでなく、栄養もしっかり摂りました。皆さんたくさん食べました。

食べてから、皆が一緒にカードゲームをやりました。ゲームをやりながら、新年の勉強計画、各国のお正月の違いなどについて話しました。会ったことがない人もいますが、ここで交流して友達になりました。これから日本での生活はきっともっと面白くなるはずです。時間が経つのが早過ぎて、空はもう暗くなりました。私たちは夜ご飯を食べて、家に帰りました。

WIN コンコードのおかげでたくさんの人が集まって、皆と一緒に初詣をしたり、食べたり、ゲームをやったりして、とてもにぎやかで楽しかったです。

大変な年が遂に終わりました。今、心を弾ませて新年を迎えましょう。

新留学生紹介

セリム（トルコ）

初めまして、セリム ババダーと申します。トルコのデニズリ出身です。

デニズリにはパムッカレという観光地があります。パムッカレはトルコ語で「綿の城」という意味で、世界遺産の一つです。地面から湧き出た石灰成分で成り立っている雪に覆われている丘みたいな風景です。パムッカレに日本人の観光客がよく訪れます。そして、そこに LOMOKO'S という日本人が経営する日本食のレストランがあります。LOMOKO'S の日本の料理はとても美味しいです。

私はパムッカレで日本人と話したり日本の料理の文化を学んだりして、日本の文化をととても気に入っていました。日本の武道にも興味があり、子供の頃に空手をやっていたこともあります。

日本に日本語日本文化研修留学生（日研生）として来ました。来る前に日本の生活に慣れるかどうか少し心配していましたが、WIN コンコードが日本でのライフスタートで必要になる物などを準備してくださり、助けてくださったおかげで、和歌山での生活に早く慣れることができました。WIN コンコード主催のお花見のイベントで友達もできて、私は、その友達に和歌山を案内していただきました。

また、和歌山にトルコ記念館があり、和歌山はトルコと日本の間にある強い友好の起点となっております。エルトゥールル号が沈没したときには

トルコの避難者は、串本の人々に温かく助けていただきました。私も和歌山に来てから和歌山の人々の優しさを実感し、深く感動しています。そして、現地に行かなければ、その国の言語と社会を深く正確に理解することは難しいと思います。私は和歌山で日本語と日本文化を勉強しながら留学生活を楽しみたいと思っています。よろしくお願いいたします。

サントス（ブラジル）

初めまして、サントス ギレルメです。2021年度の日本語日本文化研修留学生です。新型コロナウイルス感染症で、なかなか入国できませんでした。3月にやっと和歌山に来ることができました。ブラジルのリオデジャネイロ州出身です。ブラジル文化では、親が子供の名前を選ぶとき、意味から名前を選ぶよりも、亡くなった親戚の名前や綺麗だと思える名前を選ぶことが一般的です。僕の名前「ギレルメ」も母が憧れていた歌手の名前です。実は、子供の時には人の名前は意味があることを全然知りませんでした。そのため、自分の名前の意味を大人になってから調べました。

「Guilherme」（ギレルメ）は昔のドイツ語の「Wilhelm」（ヴィルヘルム）から来ており、「護る人」という意味があります。素晴らしい意味がある名前だと感じました。

偶然か運命かわかりませんが、僕が以前専攻していた法律も現在専攻している文学も「何かを守る」ということに共通性があります。何故かという、文学は言葉や物語などだけでなく、文化と



国の魂の一部も入ってあると 생각합니다。文学から地球の反対側に居る人達の習慣や歴史などを知ることができます。

それで、これから翻訳者と研究者としてブラジルと日本の絆を守りたいです。

どうぞよろしくお願いいたします。

ホスバヤル (モンゴル)

初めまして。

我が名はホスバヤルと申します。モンゴル国立科学技術大学ツイニングプログラム土木3年生の学生です。私はモンゴルの一番東にあるドルノド県を中心チョイバルサン市で2001年に生まれました。両親、お兄さんと双子の兄弟と一緒に住んでいます。

私の趣味はアニメ、漫画、音楽、本とバスケットボールです。暇なときアニメを見たり、本を読んだりしています。誰もしたことないことに初めて挑戦して、達成するまで諦めずに努力することが好きです。そして、人から頼られること、信用されることが好きで、信頼を寄せてくれる人の気持ちを踏みにじらないように行動することが好きです。他人を尊敬していない人と気が合わない人が大嫌いです。

性格は正直で、思ったことをストレートに口から出すので、言葉を言った後にたくさんことを考えることにしています。いい雰囲気を作ることができるし、人間関係を広げるタイプの人です。どんな厳しいことでも諦めないで終わりまで努力しています。恥ずかしがりで、女の人が近くから話するとき顔が赤くなっています。

日本へ行ってから、いろいろな新しいことに挑戦して楽しみたいです。

チュオン (ベトナム)

はじめまして、私はファムズイチュオンと申します。ハノイ工科大学メカトロニクス学部から参りました。

4月に和歌山大学のシステム工学科に入学します。3年生として勉強します。私はベトナムで日本語を2年半位勉強しましたが、日本人とうまく話せるかどうか、ちょっと心配しています。中学生の時、私は日本のアニメや仮面ライダーが大好きになって、日本の文化と日本の料理に興味があります。例えば、お花見や、納豆や寿司などです。

私の興味は料理を作ることと写真を撮ることです。それで、和歌山県で勉強だけではなくて、和

歌山県内を旅行して、美しい景色の写真を撮りたいです。特に文化遺産として紀伊山地の霊場と参詣道へ行ってみたいです。そして、和歌山県は果物の王国と呼ばれていますので、果樹園へも行きたいです。

私は日本に留学する目的は日本の先端技術を学んで、勉強した知識を生かして、ベトナムの発展にエンジニアとして貢献することです。日本に留学することは、私にとって自分の成長に大きい役割を果たすと思います。

これからよろしくお願いいたします。

イー (ベトナム)

私はチャンティースアニーと申します。今学期から、ベトナム国立ホーチミン市師範大学の日本語学部の四年生になります。コミュニケーションが好きだけでなく、日本語を練習するチャンスがあるように、一年生から、日本語学部が主催する交流会やホームビジットなどさまざまな有益なプログラムに参加しました。

また私は、在籍している大学の学習を通じて学んだ日本の「おもてなし文化」について、とても魅力を感じています。なかでも和歌山大学は幅広く観光学を学ぶことができ、様々な見学プログラムや旅行部があるということを知りました。学生と多く接する機会があり、日本の観光地について詳しく教えてくれることは私のような留学生にはとても魅力的な活動です。和歌山大学に入学することで観光学部と経済学部の学生と交流する機会が生まれ、1年間交換留学生として過ごすチャンスが与えられれば、双方についての知識をより深めることができると考えました。これは一期一会の経験だと考え、私は交換留学生になることを強く望んでいます。

入学した暁には、一生懸命頑張りますので、何卒よろしくお願いいたします。

ファティハ (マレーシア)

はじめまして。マレーシアから来たファティハです。マレーシアの北のケダから来ました。今年20歳になります。日本へいつ行くかはまだわかりませんのでワクワクというか緊張というか、その感情の中であいまいなラインがあります。それにしても、嬉しいと感じないとは言えません。

私の好きな食べ物はラクサというものです。ラーメンには近いが少し違いがあります。それはラーメンと比べてラクサのスープは魚を使います。

皆さんもぜひ食べてみてはどうですか。聞いたところによると日本からのお鮓とマレーシアのは違いがあります。だから、日本のお鮓を食べてみたいです。

今、日本のアニメは世界中の人々に人気があります。私もその人々の一人です。「呪術廻戦 0」の映画はとても面白かったです。アニメといえば漫画といえば、やはり日本だと思っている人は多いです。私はアニメはもちろん漫画も小説も大好きです。今は英語の小説しか読みません。しかし、日本語の小説も読めるように日本語をしっかり学びます。

私は観光学を学びたいです。だから、和歌山大学を選びました。和歌山大学の先生たちと先輩たちは優しくて素晴らしい方々です。とても感謝しています。これからよろしくお願いします。和歌山県にもきれいな観光地がたくさんあります。そのところへ見に行ったら、きっと良い経験になるはずです。

私はまだ日本語を上手に話せません。少し残念です。しかし、今も明日もいつまでも日本語をがんばります。4年間よろしくお願いします。

シェド (マレーシア)

私の名前はシェド ファミ イズディン ビン シェド ヒディルです。マレーシアから来ました。日本人と違って、マレーシアのマレー系は苗字がありませんから、自分の名前を呼んだほうがいいと思います。ですから、シェドかファミかどちらでも呼んでもいいです。

中学時代からアニメを見たり、日本の歌も聴いたり、ずっと日本に行きたいなと思っていました。今のところ、私の大好きな歌手も日本人です。ホロライブ所属の星街すいせいです。私の大好きな音楽は星街すいせいさんの「かけろ」といいます。よかったら、ぜひ聴いてください。

日本の大学に行く前に私は2年間クアラルンプールで日本語を勉強しました。クアラルンプールには日本料理の店がたくさんあります。そこで日本料理を食べてみました。牛丼やラーメンやお寿司など食べました。日本料理の中で一番好きなのは味噌汁です。

私は日本語が上手になりたいから、日本に行かなければならないと思います。日本で日本人と話したり文化も学んだり、見たことない景色も見たいです。マレーシアでは春夏秋冬がありませんから、きっと景色や活動習慣も違うと思います。いっぱい学んだことがあったら、自分の性格や価値



も上がって、いい人になるはずです。それは私の生活の意見です。今はまだマレーシアにいます。日本で生活を始めてきつと大変だが、時間が流れ、日本の習慣や生き方にも慣れるので、大丈夫だと思います。日本に行くことが楽しみです。

よろしくお願いします。

イスマイル (マレーシア)

初めまして、私はイスマイルと申します。マレーシアのセランゴールで生まれて、クアラルンプールで育ちました。辛い食べ物は何でも好きです。ゲームをするのは趣味ですが、コロナの前、時々家族と一緒に旅行することもありました。

実は、和歌山県で勉強している姉を訪れるため、数年前日本に来ました。賑やかで忙しいクアラルンプールに住んでいる私にとっては、和歌山の静かで穏やかな雰囲気が気に入りました。変だと思われるかもしれませんが、私はここで落ち着いて勉強できると思っていました。

そして、姉から日本で勉強している間に、経験した面白い話をいろいろ聞きましたから、更に日本に留学することに興味が湧いてきて、姉の勧めで和歌山大学を選びました。実は、大学を選ぶとき、和歌山大学の観光という学部を見ると、なんか面白いと思いました。今までよく聞いている学部と違っていたから、新しいことを試してみようと思って和歌山大学で観光を学ぶことにしました。

自国でも、「日本で何を学ぶ？」と聞かれて、「観光だ」と答えたら、だいたいの人にはなんかわからないような顔をしています。しかし、旅行が好きな人として、自分が観光にもっと興味を持つべきだと思います。今まだ日本に入国していませんが、そこにいる間に、ただ知識を得るだけでなく、いろいろな人と繋がったり、自分の視野を広めたりすることも目的です。日本にいる皆さんとお会いできるのを楽しみにしています！

文学の力

サントス（ブラジル）

私が「文学の力」と言うと、誰でももしかするとある程度のイメージが頭に浮かぶかもしれません。私の場合は「人を変える力」です。今日はそのことについて少しお話したいと思います。なぜならば、私自身が文学の力で人生が変わりました。それは日本語や日本文化を勉強する前の話で、法律大学に通っていたときのことです。私がインターネットで囲碁を打つことを父が知っていたので、クリスマスプレゼントとして川端康成の「名人」をくれました。

この作品は、ある新聞記者の視点から物語が語られています。囲碁の世界の頂点に立つ年寄りの名人が、次世代の棋士と10回対局をするのですが、体が耐えられなくなります。名人は世代交代に危機感を覚えているので、それでも最後まで戦うという内容です。本を読んでいるのに絵画を見ているような気がする作品です。暑い夏の日、まるで幻のような、憂鬱さとともに、ものの哀れを感じる事ができ、本当に美しいです。

私は「このような作品もっと読みたい」と思って、お金を貯めて、次に「雪国」と「山の音」を買いました。その後で、村上春樹、太宰治、吉本バナナなどの作品を読みました。読めば読むほど、それぞれの作品の内容を「もっと深く分かりたい」「もっと色々な作家の作品を読んで日本文化について知りたい」という気持ちが強くなりました。私の体が法律に居ても、魂はもう文学にいました。法律の世界で大学や仕事などを経験して、残ったものはゼロから文学を志す勇気でした。それができたから、今、私はここに居ます。

ですが、最近ブラジルでは、本に対しての愛は足りなさそうです。皆様の国はどうでしょうか？昔から私はいつも家を出るたびにリュックの中に本を入れていきます。実は、ブラジルでは、そのようなことは、おかしくて妙だと思われているかもしれませんが、意味があります。その意味は毎日、移動したり、用事や授業の始まりを待っていたり、行列に並んだりして、このような何もできない時間がよくあります。毎日、他の時間が忙しいからこそ、少なくともその短い瞬間を大切にしなければならないと思います。無駄にしたら、もったいないものでしょう？それを考えると「塵も積もれば山となる」という日本のことわざを思い出しま

す。時間も同じようなものです。忙しくても、時間を無駄にしないことで、皆さんにとって貴重な何かを得られるはずです。

私の周りを見ると、多くの人の変化を求めているようです。例えば私が大学やバス、SNSなどで見かけるほとんどの人は社会や国や世界などを変えたいと言っています。ですが、その人たちが求めている大きい変化はどこにありますか？

私の場合は、本を最初から最後までを読むことを「道」と例えると、最後まで道を通らなければ、変化が起こらないと思います。そうすれば、自分が成長して、その成長が世界にいい影響をあたえます。それが「文学の力」です。

皆さんにとって成長できるものは何ですか？

松尾芭蕉との出会い

畢 晨（中国）

松尾芭蕉という名前に初めて出会ったのは、自国の大学の日本概況の授業でのことでした。授業では、私は江戸時代の内容の発表を担当し、文学の部分では、松尾芭蕉と彼の代表作である「奥の細道」を簡単に紹介しましたが、具体的な内容はよく理解しておらず、授業が終わった後は、松尾芭蕉や俳句のことを忘れてしまいました。

松尾芭蕉との再会は、本屋の日本文学に分類された棚で、小さな本を見つけたことでした。

『但愿呼我的名为旅人：松尾芭蕉俳句300』という本で、タイトルは「旅人と我が名呼ばれん」という意味です。この本は芭蕉の俳句を300句選んで、中国語に翻訳して解説もついています。私は一目でそのタイトルに惹かれました。なぜこの本に詩のような名前をつけたのか。それを買って、家に帰ってすぐに読み始めました。

この本の翻訳者は陳黎と張芬齡で、台湾の有名な詩の翻訳家として知られています。彼らはこの本の翻訳にあたって、俳句の言葉の意味を単純に中国語に置き換えるのではなく、芭蕉の俳句の持っている雰囲気や心境を伝えています。そして、従来の翻訳者のように俳句を漢詩の格式に訳すのではなく、短く巧みな俳句の特徴を残すように工夫しています。読んでみると、俳句の巧みに気づいて、短い音だけで季節や自分の感情などを表現するのはすごいと思いました。この本を読んで印象に残ったのは「櫓の声波ヲ打つて 腸凍ル 夜や涙」という俳句です。この俳句を読んだ時に、

自分も船の中にいるような気がして、急に寒さと悲しみが押し寄せてきました。このような短い言葉に大きなインパクトがあるとは思いませんでした。

松尾芭蕉との三回目の出会いは、和歌山大学のCollins 教授の古典文学翻訳の授業や松下先生の日本文化入門の授業で、松尾芭蕉の「奥の細道」を再読したことです。人の平均寿命が 50 歳の江戸時代に、芭蕉は 40 歳過ぎの高齢で旅立って、二千四百キロを歩いたということが、私には想像できないのです。

私は「行春や 鳥啼魚の 目は泪」という俳句が非常に美しいと思います。春が暮れて、鳥が啼いて、魚が涙を流すという詩句に沿って淡い感傷がゆっくりとやってきます。これが「惜春」というものかもしれません。

松尾芭蕉の俳句を読んでもと、彼が人に与えるイメージは非常に多様だと思います。

「冬の日や 馬上に氷る 影法師」を読むと、彼が孤独な旅人であるような気がします。「露とくとか 試みに浮世 すすがばや」の場合は、心が冷めた老僧であるような気がします。しかし、松尾芭蕉は童心に満ちている一面もあります。例えば「あら何ともなや 昨日は過ぎて 河豚汁」、「愚に暗く 茨を掴む 蛍かな」などの詩句を読むと、彼は可愛い子供のようにも思えます。「月十四日 今宵三十九の 童部」という彼の俳句がいうように 39 歳とはいえ、まだ子供です。

松尾芭蕉との三回の出会いを通して、私の心の中で彼のイメージが変わっていったような気がします。最初の単純な文学の大家という薄っぺらなイメージから、後の生き生きとした孤独な旅人の

イメージへと変化しました。松尾芭蕉と弟子の坪井杜国は、春に奈良や大阪などの桜を見に行って、四月には京都に着きました。京都で坪井杜国と別れましたが、これが坪井杜国とのさよならでした。芭蕉にとって杜国は弟子だけでなく、知己でもありました。二人の笠に「乾坤無住 同行二人」と書いたように、天と地の間を旅行して、同行する人は君と私二人です。杜国を失った芭蕉は、人生の旅で同行した人を失って孤独な旅人になりました。

人生も孤独な旅ではないかと思います。大学に入ってから、いつのまにか高校の友達との話が少なくなりました。携帯電話のような先進的な通信設備があっても、共通の話題は少なくなって、なんとなくお互いが遠ざかっていくような気がしました。

ある人は人生を電車にたとえて、多くの人は降りて、乗って、でも最後は一人で人生の終着駅にたどり着くと書きました。電車と違って、松尾芭蕉は人と人の出会いを桜にたとえました。

「命二つの 中に生まれたる 桜哉」では、久しぶりに旧友と再会し、別々の人生を歩んでいた二人だが、出会った時には二人の心の中に同じ桜が咲いています。日本では「桜は七日」という言葉がありますが、桜の花の命は、わずか七日間だけで短い時間ですが、とてもきれいです。人と人との出会いも、桜と同じように短いけれど美しいのかもしれない。

松尾芭蕉は「旅人」を自任して旅行し、旅の途中で死にました。松尾芭蕉には旅行者のイメージがぴったりかもしれません。「住みつかぬ 旅の心や 置火燵」旅人だけが彼の心を理解できるのかもしれない。松尾芭蕉の俳句は旅行中に作られたものが多く、旅行中に読むのにも適しています。

今、中国の若者の間でこういう言葉が流行しています。「生活には目先の苟且だけでなく、詩と遠方もあります」。その意味は「今の生活に縛られるのではなく、遠くの理想を追い求めるべきだ」ということです。

松尾芭蕉を読むと「詩と遠方」に新しい気づきがあります。

【参考文献】

- ・陳黎、張芬齡『但愿呼我的名为旅人：松尾芭蕉俳句300』（2019年、北京連合出版社）
- ・徐建雄『奥之細道』（2020年、浙江文芸出版社）



「ああ～」と言うほどに

ジョヴァンカ(インドネシア)

私はインドネシアのガジャマダ大学から和歌山大学へ留学するために来ました。今年はコロナの影響で来日がのびのびになってしまいました。来日は他の留学生よりかなり遅れましたが、まだ留学期間終了まで何か月かあったので、短期ですが日本に来る機会を得たことに感謝しています。

日本に行きたかった理由は、異文化を体験したかったからです。最初のきっかけは日本のアニメへの憧れからでしたが、日本語と日本文化を学んでいるうちに、アニメ以外の文化にも興味がわいてきました。異文化と言っても、日本とインドネシアの文化の違いは山ほどあるので、最初は「何でもいから、体験したい」と考えました。そこから始まったのが、私の「異文化冒険」です。

来日したわずか1か月間に「忘れられない」異文化体験をしました。インドネシアではお湯なしでのシャワーは普通ですが、「せっかく日本に来たから、お風呂に入りたいな」と考えました。ですが、残念ながら部屋にあるお風呂は小さくてあまり気持ちのいいものでなかったのです。その時、あるアイデアが浮かびました。「日本には銭湯というものが普通じゃないか」と考えました。早速、日本の友達に聞いてみました。「ね、ここら辺って銭湯とかあるん？」すると、「あるよ、一緒に行く？」と返事が来ました。本当に嬉しかったです。夜になったので、早速友達と銭湯に行きました。歩くのには中々の距離でしたが、着いた時のワクワク感が止まりませんでした。銭湯とかは初めてなので、楽しみにしていました。

銭湯に着いて最初に思ったのは「広いな」でした。頭の中には、アニメの影響を受けてイメージがありましたが、思っていたのとは違いました。それに、ハイテクで販売機械からクーポンを買ってから入る、ということは全く思っていませんでした。和大生用のクーポンを買って、店員に学生証を見せた後、いよいよお風呂に入れるのです。すると、驚いたことに、皆全裸でした。実は前もって頭の中で想像していたのですが、「たぶん、全裸だよな、でも待ってよ、アニメにはタオルをつけたまま入れるお風呂もあるんじゃないか」と思い込んでいたのです。でも、やはり全裸でないと入れませんでした。本当に恥ずかしかったです。皆の“前”が見えていて、私のも皆に見えるのが、



本当に恥ずかしかったです。着替え中ずっと“前”をタオルで隠していました。隠したままにしているつもりでしたが、中に入るとやはり無理でした。でも、恥ずかしさより驚いた気持ちの方が大きかったです。中ではお風呂というより、プールでしたが、一つだけではなく、色々なお風呂がありました。それと、中にはサウナがあって、外には露天風呂もありました。「最高だな」と思いました。体を洗ったあと、一つ目のお風呂に入る直前に思わず「ああ～」とため息が口から出てしまいました。それほど、解放感と気持ちよさでした。「何時間でも入ってられるな」と思いました。その後も色々なお風呂に入りました。泡がいっぱい出るお風呂や、マッサージ用のお風呂や、生ぬるいですが気持ちいいお風呂にも入りました。しかし、やはり日本の温泉は露天風呂ですね。露天風呂はすごかったです。その時は冬だったので外は寒くお風呂は熱く、最高でした。それに、外にはテレビがあって、長い時間でもあきずに入っています。その他には、サウナです。私はサウナに入るのは生まれて初めてで、最初は5分も耐えられませんでした。それでも、いい体験だったと思います。あの時は初めてなので、1時間ぐらいいか銭湯にいなかったです。

お風呂から出たあと、ずっと憧れだったことをやりたいと思って、友達に「お風呂の後は牛乳とかは飲まないの？」と聞いたら「飲むよ」と答えたので、嬉しかったです。アニメではよく温泉から出た後牛乳をビンから飲むシーンを見ましたが、本当にそうなのかはその時までには疑問でした。やっと憧れのシーンを再現できる。牛乳を飲み終わった瞬間、また思わず「ああ～」が口から出てしまいました。本当に美味しかったです。

日本のお風呂文化はやはり最高でした。「ああ～」と言うほどに最高です。





W I Nコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

W I Nは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、W I Nコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>